

モチーフ	特徴項目	設計ポイント	写真番号
環境	深い山	屋根デザイン	1
	近隣の森	木を身近に感じる構造 樹が建物の木材に視覚化されたデザイン	1・2・4 1・2・4
	バイオマス資源	化石エネルギーからの切り替え	4
	切り捨て間伐の倒木	ペレットの活用	4
	売ることのできない植林・天然林の樹	ゴミを出さない設計方針	2・3
		通常売れないタイプの木も賣う	1・2・4
	木材のゴミ	売れない理由をデザインへ活用: 節、枝、曲り、大径木	1・3・4
		売れない理由をデザインへ活用: 管理されない天然木	1・2・4
	傾斜地	歩留良く材を活用する: 丸太	1・2・4
	西日	歩留良く材を活用する: 角を落とさない板材	1・2・3・4
	お寺	高低差を活用し、変化にとんだレベル設定	^
		陰の作る空間デザイン	1
	子供たち	バランスを考慮して仕上げ材選定	5・6
		既存と新築のバランス設計	6
	歴史	紙の再利用・一閑貼りなど	5
古材のリサイクル設計		6	
みんなの場所	古材のリサイクル設計	6	
	裸足・内・外で遊ぶ	1・2・3・6	
保育	岐阜の特徴・特産物を使った設計	2・3・4・5・6	
	1000年を超える紙の歴史	5	
保育	170年を超えるお寺の歴史	6	
	地域活動が行われる場所・避難場所	5	
地域	お家でのくらし(内・外問わない)	2	
	遊戯(歌う・踊る)	1	
地域	遊戯(歌う・踊る)	1	
	物価表に拘りすぎない	2・3・5・6	
地域	流通材とオーダーメイド材を適材適所に活用	4	
	人工乾燥と天然乾燥をバランスよく活用	4	
地域	建設開始より1.5年以上前から材料手配を検討	^	
	無垢材使用	2・3・4・6	
地域	無垢材使用	2・3・4・6	
	特産物	2・3・4	
地域	特産物	6	
	本美濃和紙、柿渋	5	
地域	古材をリサイクル材として活用	6	
	地域のシンボル美濃橋	6	
地域	竹林	竹ヒゴとし、建具に活用	5
	家族の作業	子供の頃のお手伝いで培った技術の再発見と活用	5
地域	文化・伝統	仕事で身に付けたのは異なる技術・知恵	1・5・6
	文化・伝統	グループ・ワーク、花みこしの竹ヒゴ	5
感性	文化・伝統	鶴鯛い船	6
	保育室	両手足を考慮したデザイン<違う・裸足を意識>	2・3・4・6
感性	お昼寝空間	板材強度と柔らかさを伝えるデザイン	2・4
	遊戯室	生物資源である板材を伝えるデザイン	2・3・4
感性	遊戯室	内部表面温度の差を小さくする工夫	2
	リサイクル・ガラス	落ち着く光計画	1・2
感性	子供	松舞台	3
	保育園活動	子供の世界を引き出すしくみをデザイン	1
感性	オペレッタ	木材	4・6
	オペレッタ	リサイクル・ガラス	7
感性	オペレッタ	子供	4
	オペレッタ	保育園活動	2
感性	オペレッタ	オペレッタ	1・2・3・4・6・7
	オペレッタ	オペレッタ	2・5
感性	オペレッタ	オペレッタ	1
	オペレッタ	オペレッタ	1・3
感性	オペレッタ	オペレッタ	1・2
	オペレッタ	オペレッタ	1・2

表-1 木育設計のモチーフ例



写真5 地元の竹林の竹を地域の人が竹ヒゴにし、本美濃和紙と柿渋で皆が作った一閑貼りの建具

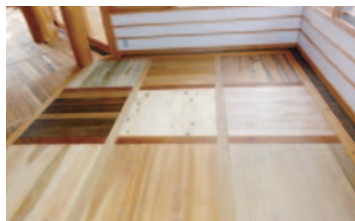


写真6 岐阜の広葉樹と鶴鯛い舟材の床

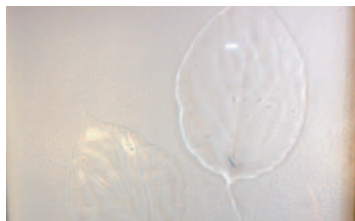


写真7 広葉樹の葉っぱをかたどったリサイクル・ガラス



写真3 木のカタチをした檜舞台



写真4 のり付けしない暖かい天乾杉の置き床・ペレットの床暖房

森林のたより2011、11月号の「木で育ち『木育』が求められる時代」のなかで、木育のある保育園を創る重要な要素(モチーフ)として、「環境」「地域」そして「感性」の3つを提案しました。今回、この3つの要素を、いかにして建築というカタチのなかで具現化されるのかを、岐阜／美濃で取り組まれた例を使って紹介します。今回の取り組みは、この地域ではよく見られ

る、「川から山へと続く傾斜地に設計された保育園舎」ということで、国産・地域材をふんだんに使い、森林環境を感じ、そこから生み出された知恵を体感することができる『木育モデル園』となっています。表-1は、今回提案した木育設計に活用したモチーフの一覧です。



写真1 「環境」モチーフを考慮した構造と建材選び・1階 遊戯室



写真2 「感性」モチーフを考慮した床・空間デザイン・地階 保育室

また、これらのモチーフを使い設計・デザインされた実践例の一部を写真で紹介いたします。こんなモチーフの取り入れ方は、皆さんもどこかで見ることがあり、また「人と森を生かす知恵」のモチーフでもあることに、気がつかれることでしょう。こういった知恵は、森林文化のカタチとして、皆さんの周りにたくさん散りばめられています。木造建築設計を行う場合、現代ではソフトと連動した建築職能が求められています。今回紹介した事例に代表されるように、ソフトを連動させた「木育」ベースの設計・建設手法は、今後非常に重要な要素となつてきます。森林文化アカデミーの木造建築講座では、多様な講師陣を活用し、木材消費の拡大も可能とする環境保全とコミュニティの活性化を踏まえた木造建築教育として、「木育建築」を学ぶことができます。

